

地域特性を反映させた家具固定化を推進するための啓発ビデオの作成

山梨大学大学院 学生会員 ○畠山 修一
 山梨大学大学院 フェロー 鈴木 猛康
 山梨大学大学院 フェロー 秦 康範

1. はじめに

大規模災害時には公的防災力には限界があり、地域防災力の向上には自助・共助の推進が不可欠であることが指摘されている。近年発生した大きな地震では、家具の下敷きになり重傷を負い、その後発生した火事の延焼から逃げ遅れてしまうといった被害が発生している。自助・共助を高める身近で重要な地震対策である家具の固定化は、あまり進んでいないという現状がある。その理由として、テレビなどで見ることのできる情報コンテンツは一般向けに作成されているため、視聴者には自分自身の問題としては映らず、他人事と捉えられてしまうと考えた。そこで、本稿では、山梨県下の地域コミュニティを対象として、地域特性を反映させ、住民が身近かつ自分自身の問題として捉えられるような家具固定化啓発ビデオの作成をした。家具固定化啓発ビデオを作成する過程において、AHP¹⁾手法を用いた評価を行ったので、その結果を報告するとともに、その結果に基づいて地域防災力を向上させるための情報コンテンツの要件について考察を加える。

2. 地域の代表的な家具の種類および家具の設置状況の把握

本論文のフィールドとした山梨県市川三郷町市川大門 6 丁目防災会において、代表的な家具の種類およびその設置状況に関するアンケート調査を行った。アンケート結果は図-1 に示す通り、高さ 180cm 程度のダンス類と本棚が本地域を代表する家具であることを示している。これらの代表的な家具のL型金具を用いた真壁構造の壁への固定を防災会内の実際の住宅で実施し、この固定作業をビデオ撮影した。撮影したビデオ映像を家具固定方法の(1) 難易度、(2) 経済性、(3) 多様性という3つの観点から編集し、それぞれ3種類の家具固定化啓発ビデオを作成した。

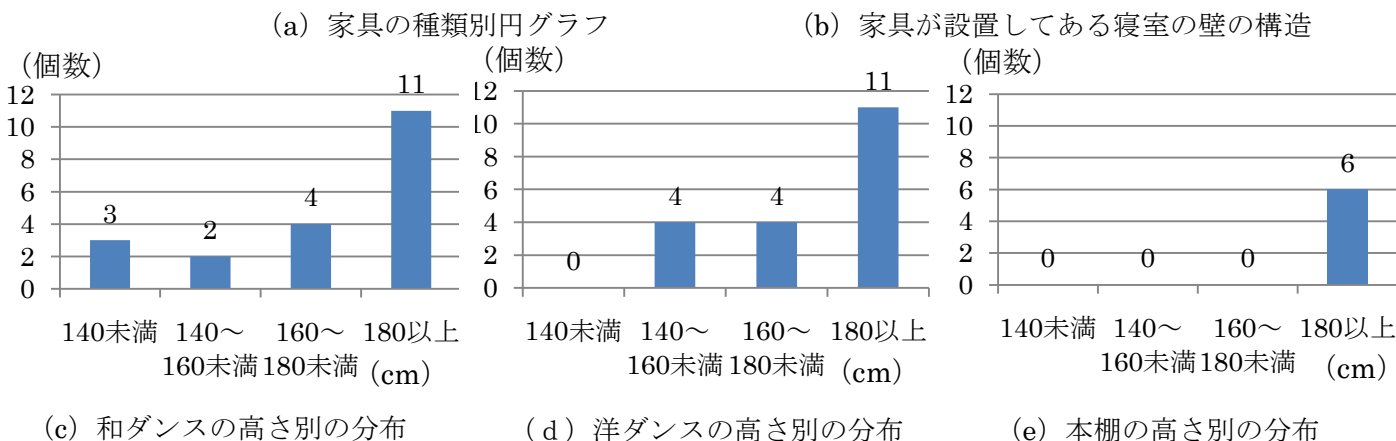


図-1 本地域の代表的な家具の種類および家具の設置状況の把握に関するアンケート調査結果

キーワード：地域防災力，家具固定化，地域特性，AHP，

連絡先：山梨県甲府市武田 4-3-11 山梨大学大学院医学工学総合教育部 TEL：055-220-8531

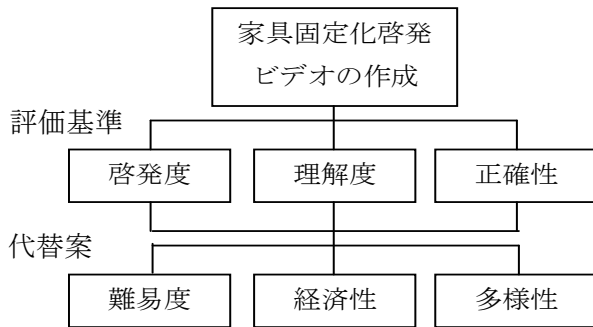


図-2 AHP 手法を適用した家具固定化啓発ビデオの評価のための階層図

表-1 AHP 手法を用いた各評価基準の重要度評価

評価基準	啓発度	理解度	正確性	総合評価
ウェイト	0.305	0.324	0.371	
難易度	0.295	0.273	0.385	0.318
経済性	0.355	0.417	0.327	0.369
多様性	0.350	0.310	0.288	0.313

3. 家具固定化啓発ビデオの評価に対する AHP 手法の適用

AHP (Analytic Hierarchy Process) 手法を適用し、編集した 3 種類のビデオの重要度を算出し、重要度の比率に基づいて、家具固定化啓発ビデオを作成しようと考えた。その際、評価指標として、啓発度、理解度、正確性を選定した。3 種類のビデオを代替案、啓発度、理解度、正確性を評価基準に設定すると、図-2 に示す AHP の階層図が得られる。ここで、3 つの評価基準については以下のように定義した。

啓発度：ビデオを見て、家具固定をやりたい、やってみようと思うこと。

理解度：ビデオの内容が分かりやすいこと。わかりづらい表現、見づらい映像になっていないこと。

正確性：家具固定の実際の困難さを伝えているか。大変なことは大変、簡単なことは簡単、どんな道具を使い、補助的な力は必要なのかなど、家具固定を実際に行う際、内容が現実的であること。

まず最初に、住民に 3 種類のビデオを提示し、評価基準間で一対比較を行うアンケートを行った。次に、各評価基準における代替案の一対比較を行うアンケートを行った。その結果は表-1 に示す通り、3 つの代替案に関する総合評価に大きな差は見られない。その理由として、啓発ビデオを作成する際、強調したい観点だけで作成するのではなく、ほかの観点も少なからず含まれる。住民はそれを見て評価するので、すべての観点が同程度に重要だと判断したと考える。3 種類のビデオの総合評価の比率を時間の比率とし、編集することによって、住民の意見を反映させた 1 つの家具固定化促進ビデオを作成した。

今回は、家具固定化を啓発するビデオを作成したが、本地域において地域防災力向上を目的とし、啓発するような他の情報コンテンツを作成する際にも、本稿で抽出した評価基準に関する知見を反映させることができると考える。

4. まとめ

本稿では、地域特性を反映させた家具固定化啓発ビデオを作成した。そして、AHP 手法を適用し、家具固定化啓発ビデオの評価を行った。本論文で得られた結果についてまとめると以下ようになる。(1) 本地域を代表する家具の種類ならびにその設置状況は、高さ 180cm 程度のタンス類と本棚であり、真壁構造であることがわかった。(2) 本地域の代表的な家具を防災会内の実際の住宅で実施し、この固定作業をビデオ撮影し、そのビデオ映像を編集して 3 つの観点を強調した 3 種類の家具固定化啓発ビデオを作成した。(3) AHP 手法を用いて家具固定化啓発ビデオの評価を行った結果、すべての観点が重要だとわかった。(4) 最終的に 3 種類のビデオの総合評価の比率を時間の比率として、編集し、1 つの家具固定化啓発ビデオを作成した。今回は、家具固定化を啓発するビデオを作成したが、本地域において地域防災力を向上させるための他の情報コンテンツを作成する際にも、本稿で抽出した評価基準に関する知見を反映させることができると考える。今後、今回作成した家具固定化啓発ビデオ最終版の住民による評価を実施する予定である。

参考文献

1) 酒井浩二, 山本喜一郎: Excel で今すぐ実践! 感性的評価 AHP とその実施例, ナカニシヤ出版, 2008